

経営比較分析表

福井県 永平寺町

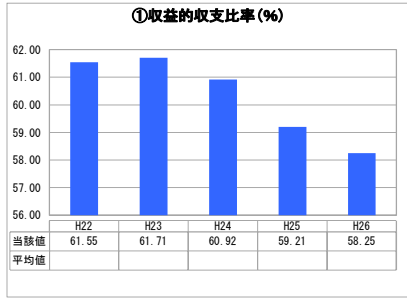
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	37.42	92.05	2,484

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,362	94.43	205.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,218	1.65	4,374.55

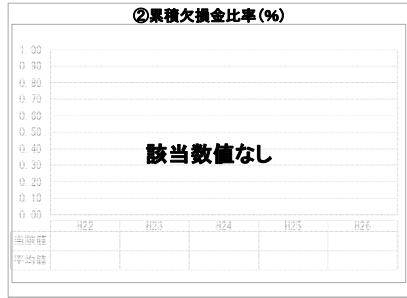
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成26年度全国平均

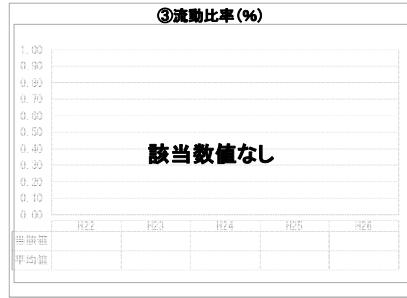
1. 経営の健全性・効率性



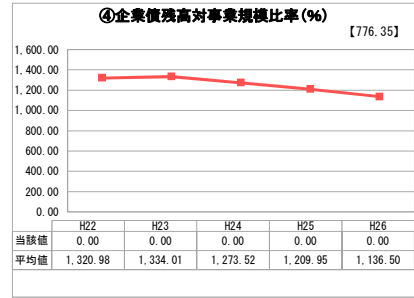
「単年度の収支」



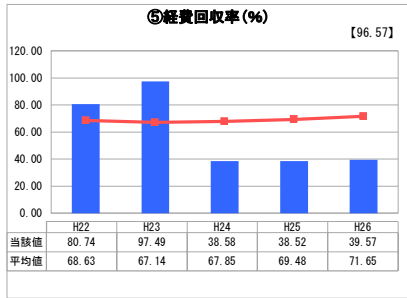
「累積欠損」



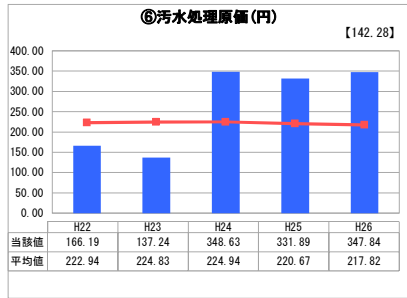
「支払能力」



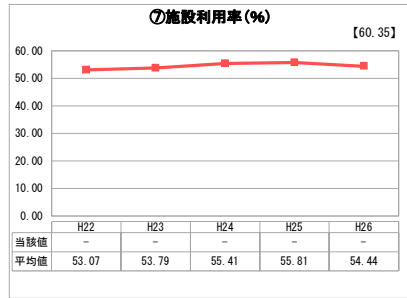
「債務残高」



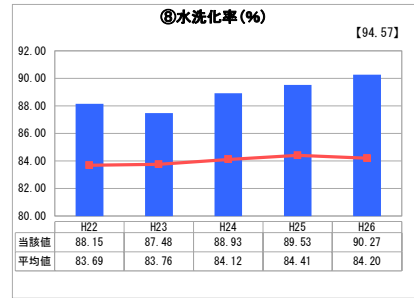
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

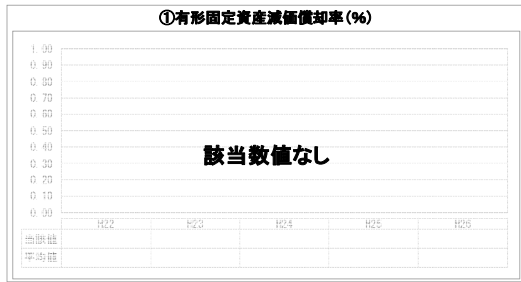


「施設の効率性」

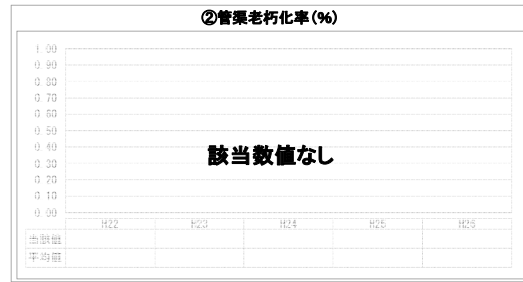


「使用料対象の捕捉」

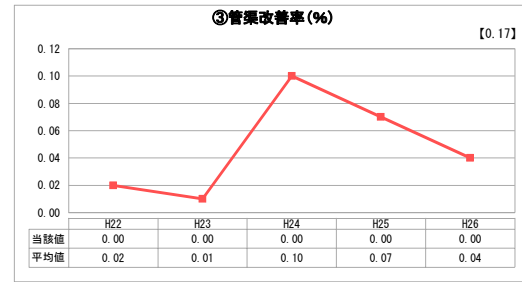
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率、⑤経費回収率から見ると、両者とも100%未満である上、総収益の約7割を一般会計繰入金に依存している状況であり、使用料収入の確保が必要である。

④企業債残高対事業規模比率は、企業債残高の償還を全て一般会計繰入金に依存しているため、指標となる数値は表れてこない。⑤経費回収率、⑥汚水処理原価は、両者とも100%未満である上、類似団体、全国平均を大きく下回っている。これらのことから投資の効率化や維持管理費の削減、料金水準を見直し等による経営改善を図り、持続可能な下水道事業の推進に努めていく必要があると考える。

⑦施設利用率は、当町においては、五領川公共下水道事務組合に汚水処理を委託しており、終末処理場がないため該当しない。⑧水洗化率は、90.27%で若干、未接続世帯(浄化槽設置世帯等)が残っているものの、おむね汚水処理が適切に行われており、水質保全に寄与している。

2. 老朽化の状況について

当町の公共下水道事業は、平成7年4月より供用を開始し、20年が経過している。従って、耐用年数の観点から考えても、半分以上の経年数となっていることから、現状としては管渠の更新・老朽化対策は実施していない。

長期的な考えとしては、管渠の更新は、耐用年数である50年を目処に実施することを考えているが、単に耐用年数通りに更新するのではなく、事前に点検を行い、その時の状況に即して更新を行っていく予定である。

全体総括

当町の公共下水道事業は、平成7年4月より供用を開始している。しかしながら、汚水は中継ポンプ場から五領川浄化センターに圧送し処理している。

経常収益は、一般会計からの繰入金に大きく依存し、経営状況は脆弱である。このため、料金体系の見直しによる収益の確保、維持管理費の削減、施設の統廃合等の効率化による費用の削減を行い、経営改善を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。